

インターバンクの声（2015年12月21日）

金曜日の昼過ぎまでの東京市場は、前日の未明に米連邦準備制度理事会（FRB）が9年半ぶりに利上げに踏み切った後、それまで丸一日以上も平穩に推移していたドル相場はそのまま継続となった。今年最後の日銀会合の政策変更を警戒していたと言うよりも、欧米市場が参入して来る頃までそのままの相場が続くそうだとする雰囲気も強かった。ところが、日銀からの発表が、政策変更なしを発表する場合の平均的時刻よりもかなり遅れていると市場が感じ始めていたところ、日銀の異次元緩和の「補完的」措置の導入が発表されたのだが、結果的には円の買戻しと大幅な株価下落を招く格好となってしまった。一部からは事実上の追加緩和とも認識されたが、この補完的な措置に資産買い入れ額の変更はなく、むしろ日銀が本格的な追加緩和を行うのは困難なのではないかとの不安拡大が相場を大きく動かしてしまったようだ。欧米市場では、ニューヨーク・ダウを中心にして株価の下落は大幅だったが、為替市場が荒れることはなく、週初めのアジアの株式市場は、とりわけ日経平均が続落するかどうかなどを確認したいのか、或いは欧米勢の多くがクリスマス休暇・モードに入っているかのどちらかだったのだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。